

平成 28 年度 第 3 回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会 議事要旨

1 日 時 平成 28 年 9 月 29 日(木)14 時 00 分

2 場 所 本庁舎 9 階 会議室

3 出席者

(1) 検討委員会委員 8 名

(2) オブザーバー(北海道大学大学院工学研究院)3 名

(3) 事務局 市民生活部長ほか 6 名

4 次 第

(1) 開会

(事務局)

10 月 23 日(日)に市民会館小ホールで市民フォーラムを企画している。昨年度、基本構想でも紹介した岐阜県可児市にある可児市文化創造センターの衛館長にお越しいただくことになっている。内容としては 1 部で衛館長に公共施設の役割を講演いただき、2 部でパネルディスカッションとして森委員長にコーディネーターをお願いし、パネリストとして衛館長の他に岩倉市長、現在ワーキンググループに入っている委員 2 名にも参加いただくことになっている。委員の方も周りの方々をお誘いのうえ、是非参加いただきたい。

(委員長)

前回の検討委員会で各部会からの報告をいただいた。前回の反省としてややかしこまりすぎた感じがあった。また、会議の進め方として各部会の議論を検討委員会でチェックするというやや誤解を招くかたちになってしまったが、そうではないということを改めて共通の認識として持って議論していきたい。各部会の委員の方々は主たる機能について深く議論していただいております、部会に入らず検討委員会のみに入っている方は、基本構想からの議論の経緯をよく知っておられる。そういう立場の方々が一緒に集まって知恵を絞っていく場が検討委員会であり、全員で理解し合いながら議論していきたい。「理解し合いながら」というのは、各部会のリーダーの方は他の部会の議論がどのように進んでいるかが情報としてなかったりするので、他の部会でどの程度議論が深まっているのか、知恵が出てきているのかということ全員で理解しながら、その質を高めていくような知恵を出しあうというのが、今日の検討委員会の設定として捉えていただきたい。

本日の議論は硬くいえば、次第にあるとおりの「事業連携や複合化への横断的検討」ということになるが、もう少し柔らかく言うと各部会の基本的な機能は違うが、そ

それぞれの部会から出てきたアイデアの事業はもしかしたら一緒できるのではない
か、一緒にした方が効果が上がるのではないか、こういったことを組み合わせること
で、大きなテーマになってくるのではないかということによって相互の関係性を意識し
たような部会でのアイデアの理解の深め方を本日は目指していきたいと思う。

まず、この後は議論の進め方も含めて、事務局にスケジュールの説明をしてもら
う。今後、検討委員会と各部会が今年度どのようなスケジュールと検討の段取りを
踏まえて進めていくのかという確認を説明してもらう。もう1つは、検討委員会と
各部会の役割を説明していただきながら、議論に入っていくという方向にしたいと
思う。お手元の資料は結構な密度になっている。言い換えると各部会の議論を非常
に密度が高く行われているということである。情報量が多いので、これをわかりや
すく紹介していただきながら議論を進めていきたい。

(2) 事業連携や複合化への横断的検討

(北海道大学大学院工学研究院)

資料1、資料2及び苫小牧版アイデア集の説明

(委員)

活動部会では、子どもたちを育成するプログラムを考えたりしている。また、苫
小牧には様々な活動や、モノづくりをしている人が多くいるにも関わらず、あまり
表には出ていない方々が多くいるのが現状である。そうした方々に対しては、こち
らから依頼をすることで出てくれるのではないかという意見があった。

そういった現状を踏まえて、市民の活躍の場を提供する企画ができないかという
議論が主にあった。私自身も市内で演奏活動をしているので、活動をはじめたばか
りで資金がなかったり、演奏する場が少なかったりすることもあるので、表に出て
行けるようなプログラムが作ることでできればいいと思っている。

(委員)

鑑賞部会では、苫小牧というまちに誇りを持ちたいということで、阿波踊りなど
と同じように苫小牧の良いところとして自慢できるものが、この市民ホールに詰ま
っていれば良いというような意見が部会員からも出ていた。

(委員)

展示・窓口部会では、幼少期から市民ホールに通うようなことをしていれば、市
民ホールに愛着が湧くのではないかという意見が出ていた。まず子どもに興味を持
ってもらうことで、一緒に親がついてくるなど大人の出入りも多くなったりする。
また、今までの固定概念を破ってなおかつ苫小牧らしく活動している人々が多くい
るということで、そうした人々を展示・窓口の機能でつなげて苫小牧市民全体で活

動できる場を作っていければ良いと考えている。

(北海道大学大学院工学研究院)

各部会で話されている内容は、アイデア自体は異なるが例えば子どもの頃から育成していきたいというようなことや、地域の中に既にある活動をどのようにつなげていけばよいかというところは、非常に共通した議論をしている。各部会で合わせて20個近いアイデアが出てきており、まずはそれらを整理してみたいと思う。

子どもの頃の育成ということで紹介した中には「とまこまいキッズ基金」、「デコレーション大作戦」、「わたしの絵日記プロジェクト」などがある。

他のアイデアについてもグループ分けしていきたいが、まだ委員の皆様もアイデアを整理できていないところがあると思うので、まずは感想などあれば伺いたい。

(委員)

「とまこまい文化口座」のようなポイント制のものは、私が関わっているピアノの世界でもあり、5回続けてコンクールに出るとキーホルダー、10回続けて出ると盾、15回続けて出ると色の違う盾がもらえるというような仕組みがある。日本全国どこのコンクールでもカウントされ、パスポートのようなものにカウントされる仕組みになっている。やはりこういったポイントはお金では買えないものなので、多くの方々は情熱を持って取り組む。

「とまこまいキッズ基金」について、私自身の体験として日高町でとねっこピアノコンサートという馬をテーマにしたコンサートに3回ほど参加したことがある。その際に助成金を申請したときに、様々な制約を受けたことがあった。基金を作る際には他の助成金や事業費が受け取れないなど、制約なども考慮したうえで考えなければいけない。

また、とねっこピアノコンサートの際に親も観に来てくれるのではないかということで、小学生の子どもたちにある企画でコンサートに使用するための馬の絵を募集したことがあった。小学校によっては学校の先生がその企画に賛同して授業中に牧場にピクニックがてらスケッチの授業をしてくれた。ただ、そうではない学校もあり非常に偏りがあったので、学校に対してどのように説明したらうまくいったのかという経験があった。

「ソロデビューへの道」については、団体では何かできてもなかなか1人の才能を伸ばしていくことは難しいと思うので、是非実現してほしいアイデアだと思う。

「腕利きサポート部隊」は、文化・芸術面だけではなく、生活に密着した部分のサポート部隊があるとお年寄りなど身近に感じられるかもしれない。

(北海道大学大学院工学研究院)

生活に密着したという部分では、活動部会で町内会活動の話題もあった。それ自

体は苦小牧版アイデア集に載せることはできなかったのだが、市民ホールで生活への密着と文化芸術をうまく絡めていくことができればという議論も出ていた。

(委員長)

ステータスのような達成感があるのは、大人にとっても子どもにとっても大切である。ただ、1度ステータスを得ると永続的に続くというのではなかなか難しいところがある。例えば飛行機のマイレージを参考にすると、その年に頑張った分が翌年度のメリットになってくるようなことを考えていくなどやり方は色々あると思う。アイデアとしてはリピーターを考えるうえでは大事だと感じた。

(委員)

スタンプラリーのようなものも面白いかもしれない。同じジャンルのものに特化してホールで鑑賞するのではなく、コンサート、演劇、バレエなど各ジャンルを年間で観ることで何かをもらえるような企画があると様々な芸術を鑑賞してもらうことができるため、バランスが取れていいかもしれない。

(委員)

新潟県十日町市などがある越後妻有地域で開催されている「大地の芸術祭」は、自然の中で芸術作品を楽しめるような世界最大級の国際芸術祭である。例えば、まつだい駅前には草間彌生氏のオブジェがあり、その他にも様々な芸術家の作品が古い家や田んぼの中に置いてあり楽しむことができる。その芸術祭では、スタンプラリー形式で各作品を見て回ることでスタンプを集めることができる。そういったところでは、芸術好きの方々のコミュニティができあがっている。

先ほど「カルチャーフェスティバル」のアイデアが出ていたが、施設全体で踊りや展示、飲食ができる場所があって、年に何度か1つの催しを開催していくことで、そのイベントの展示や食などのレベルは徐々に上がっていく。1つの例でいくと「いちごけずり」というスイーツがそうである。現在では全国的に有名になり、東京の丸の内にある丸ビルにショップができるくらいになって、北海道フェアなどでも必ず販売されるものになっている。そういう意味では市民ホール全体を使った催しができたり、表現できたりするような場所が生まれると非常に良いと思う。

多くの人はそういったフェスティバルなどを開催したときに、そこで時間を過ごしたいと感じている。私のようなイベントを企画、運営する仕事は、個人の時間を盗むことが仕事であり、テレビやラジオなどのマスコミ関係の仕事も個人の時間をどれだけ引っ張るかという部分がある。

また、スマートフォンがあれば何でもできてしまう時代に、苦小牧が行う SNS での情報発信、各公共施設間の連携は非常に重要である。

(委員)

スマートフォンなどでの情報発信とは異なる話題になるのだが、「とつげき新聞部」に関連して、私の学生時代には学校祭でクラス対抗の壁新聞コンクールがあった。なぜコンクールをやらなくなったかを関係者の方に聞くと現在は放課後の残り方が難しいなどという理由からやらない学校が多くなったということであった。苫小牧は紙のまちでもあるので、企業の協力を仰げるかもしれない。また、できあがった作品を新聞社に掲載してもらえたりすると良いと思う。

(北海道大学大学院工学研究院)

教育機関ができなくなっていることを市民ホールで担うことができると面白いかもしれない。次回の展示・窓口部会では、「情報発信」というキーワードについて議論することになっている。北海道新聞のとまこむの関係者をゲストスピーカーとして呼び出す予定である。スマートフォンなどの新しい情報とローカルな情報の双方の面から部会でも話をしていきたい。他に御意見などがあればいかがだろうか。現在、市民会館で行われているバックヤードツアーはどのくらい前からやっているものなのだろうか。

(委員)

市民会館の指定管理者が途中で代わったりしているという経過があるが、かなり前からやっている。現在の市民会館は設備の更新がない中で目新しいものはないが、新しい施設になれば見せることができるものは増えてくると思うし、ホールだけに限らず施設全体のツアーもできるのではないかと思う。

「ソロデビューの道」について、スポーツの世界では有力な子を上にあげるようなプログラムはあるが、芸術や文化についてはあまりそういったものがない印象がある。学校教育としては良くないことなのかもしれないが、市として一流の子を育成するプログラムがあってもいいかもしれない。

(委員)

コンクールの練習をするととなるとホールで練習したいため、ホールを借りるのに数万円かかってしまう。そうすると1人では借りることはできず、反響板を付けることで追加料金がかかってしまう。バレエでも楽器でも練習を続けていって、その積み重ねによってホールを安く借りることができるような体制があるといいのではないかと思う。練習を頑張っていれば市は応援してくれるという雰囲気が必要である。千歳や恵庭では市民だとホールを安く借りることができるプログラムがあるのだが、苫小牧にはそういったものがない。簡単なのだが、苫小牧では前例のないことなので是非、実現できると良いと思う。

(委員)

芸術支援プログラムのようなものを作っていけばいいのではないかと思う。

(委員)

ピアノだけをやるのではなく、他の楽器を演奏することも勉強になる。例えば、その育成スクールに行くと、ピアノの人だけでなく、バレエのことも話ができたりできるような環境である。バレエの子も生のピアノで踊ってみると違うかもしれない。先ほどの「カルチャーフェスティバル」のときにミニコンサートをするなどできるといいかもしれない。

(北海道大学大学院工学研究院)

鑑賞部会では、苫小牧は若手でプロになりそうな子が育ちやすいという話題が出ていた。

(委員)

それは中学校までという印象が強い。部活動に入部している子には手厚い印象があるが、部活動同様に個人で熱心に芸術活動をやっているのに部活動以外で活動しているとなるとなかなか進学の際に金銭面などで優遇してもらえないことが多い。高校進学するときになると、個人での芸術活動か勉強のどちらかを選択しなければいけない時期が来て、札幌などの市外へ良い人材が流出してしまう現状がある。

(委員)

苫小牧の高校に行って吹奏楽が上手な子は、部活動とは別に個人レッスンで先生に習いに行ったりしていることが多い。また、市内で音楽の能力が伸びるプログラムがあればいいという意見は賛成である。私の経験として吹奏楽だけしかやったことがない人と違ったジャンルで少しでもオーケストラなどを経験としてやっている人とは音楽性が変わるような印象がある。例えば、市民管弦楽団に学生が入れようような機会を設けて、オーケストラでの音楽を経験させたり、バレエなどの演劇の音楽をやることも経験として非常に素晴らしいものである。それを学生のうちから経験できることは貴重なものであり、バレエを演じる側も生演奏でやるというのは良い経験になると思う。

(委員)

市民管弦楽団と演奏会をやったことがあるのだが、結局お金の問題で継続できなくなってしまうという経緯がある。

(北海道大学大学院工学研究院)

何かイベントを仕掛けて、他の団体とコラボレーションするときの金銭面などでのサポートが足りないことが現状の問題点として挙げられる。

(委員)

市民ホールができたからといって積極的にお金を出して音楽や演劇を観に来る人が増えるとは思えない。例えばワークショップを連続してやりながら、有料で継続して参加してもらうことによって、最後に卒業公演をホールでやるようなイベントが考えられる。自分たちで作り上げながら、市から補助金をもらうなどしてイベントを展開していくと面白いと思う。そういったものはバレエ、吹奏楽、演劇など様々なことに応用できると思うので、うまく企画をしながら施設をどう有効に使うかを考えていけるのではないかと思う。

(北海道大学大学院工学研究院)

委員の方々のこれまでの御経験からやりたいことが明確に見えてきているのだが、それをできない理由もはっきりしているので、今後そういった課題や問題点についてどのように改善していくかを議論していきたい。

(委員長)

お金の話が出てきているが、全ての取組を独立採算でやることは非常に難しいと思う。例えばA,B,Cの事業は連携していて、Aというワークショップで集めた参加費をコツコツ貯めていってBという発表会を仕掛ける意識を持つことは非常に重要だと思う。

また、自治体の考え方にも非常に関わってくると思うのだが、公共施設の整備で優先的に淘汰されるのは文化系施設であることが多い。どうしても施設を運営したり、維持したりするときに、お金の目的と効果がはっきりとしているものに対して税金を投入しやすい。文化系施設がなぜ淘汰されるかということと投資的側面が大きいからである。お金を使ったことがダイレクトにその瞬間に見えてこないというところがある。文化には先行投資的な「すぐにお金を使ったからといって効果が現れないものである。」ということを理解している地方公共団体とそうでない地方公共団体では公共施設のクオリティは大きく変わってくる。そのあたりはこの検討委員会も含めて、私が発言したようなことが重要であるということを訴えていかないと自治体から「目に見えないお金の使い道なのでそれはできない。」となっても残念な話である。大きな話になってしまったが、根本的に大切な部分であると思うのでそのような発言をさせていただいた。

(北海道大学大学院工学研究院)

オーケストラやオペラなどと連携という話があったが、展示・窓口部会では「図

書室(ライブラリー)de ライブ」、「ワクワク展示室」のようなかたちでホワイエや共用空間でワークショップなどのイベントを仕掛けていきたいというアイデアが出ていた。展示・窓口部会では、コラボレーションを非常に強調されていたと思うが、そのあたりで何かいかがだろうか。

(委員)

友人で演劇グループを起ち上げた方がいる。そういった方々を巻き込んで何かを仕掛けていくことができれば面白いのではないかと思う。

(委員)

演劇のワークショップを開催するとなると、年間のスケジュールの中でプログラムを作成して卒業公演をやるような仕掛けづくりがよくある。

(北海道大学大学院工学研究院)

1つのプログラムとしてこの施設独自の演劇を製作するというのは、各地でよくやっている。

(委員)

苫小牧にはなかなかオペラの公演がないので、オペラのワークショップをやりながら大きなオペラの公演をみせることで、その魅力を伝えることもできる。また、小さいワークショップを展開できるような市民団体を作ることも考えられる。

(北海道大学大学院工学研究院)

展示・窓口部会ではゴスペルをされている方がいて、例えばゴスペルや合唱はホールなどの専門設備を有したところでなくとも、場所を問わず、練習や発表ができるという意見が出ていた。

(委員)

これから市民ホールをつくるにあたって、ホールに限らずロビースペースでもどこでも機器を使用できる施設のつくりをすることで、スピーカーやマイクなどを使った展示と鑑賞を組み合わせた施設利用を考えられる。例えば展示作品を見るときに、今までは業者を呼ぶことでしか実現できなかった仕掛けが簡単にできるようなスペースを作れるようになる。

(委員)

これから5年もすると様々な設備が変わってくると思う。会社で所有するスタジオでは諸室や風呂場にもジャックが付いている。作曲しているときにふと思いついた

ものをすぐに録音したいという理由からそのようなつくりをしている。

また、先ほど紙の話題が出ていたが、苫小牧で紙フェスティバルをやっしまえばいいと思う。コミュニティを意識して、市民ホールでは市民も参加できるようなものを作っていかなければいけない。札幌で毎年行われているよさこいソーラン祭はその一例で参加者が1番楽しめるイベントである。このようなフェスティバルはキーワードでまとめると、それに注目が集まって全国的に有名になる可能性があり、その場で飲食店などが展開できるような可能性も出てくる。

(北海道大学大学院工学研究院)

御指摘のとおり、施設の自由な使い方や連携というキーワードをもとに活動を展開していくことで、空間や技術は付いてくるという話だったかと思う。それはどのようなキーワードをもとにアイデアを展開していくかにかかっているが、今後、市民が楽しめるコミュニティを形成できる可能性は大いにあるということだと思う。

(委員)

ロビーの外にパブリックビューイングができるような大型スクリーンのようなものを作れば、市民が喜ぶのではないかと思う。

(委員)

展示・窓口部会で出ていた「図書室(ライブラリー)de ライブ」の話と関連して、「食わず嫌い」と同様に音楽も「聞かず嫌い」という方も多いのではないかと思う。本を目的に来ている人が偶然にゴスペルに出会って好きになることもある。また、バレエを観たことがなかった人がバレエの発表を観て、子どもの発表会とは違うものなのだと感動するかもしれない。あるいは、ピアノがクラシックと思っている人もいるのではないかと思う。短い時間で誰でも参加できるような催し物があれば良いのではないかと思う。

「図書室(ライブラリー)de ライブ」のように気構えずに居たら出会うことができたというのが良い。冬になると図書館には新聞を読んだり、居眠りをしたりするお年寄りがたくさんいらっしゃる。そういった方々も音楽と出会わずにこれまで過ごされていたかもしれない。

(北海道大学大学院工学研究院)

展示・窓口部会でコラボレーションというキーワードが出ていた発端は、もともとは音楽などに触れる機会のない子どもたちが、工作のワークショップをとおして音楽に出会うというような機会を提供したいという発想からであった。

(委員)

例えばオルゴールは裸の状態で売っていることがあるが、オルゴールを入れ物に入れることで音が響くようになる。工作室で外側の箱を作るようなワークショップを展開することで、展示や音楽と連携したイベントなどもできるかもしれない。

また、他の委員の方々も仰っていたが子どもを育てるということは重要である。

(北海道大学大学院工学研究院)

「育てる」ということであれば、子ども達をどのように育てていくかという話題や、子ども達ばかりでなく市民の方々の文化芸術などに関する関心も含めてどのように育てていこうかという話であった。

また、キーワードとして「出会う」というアイデアも出していただいた。「図書室(ライブラリー)de ライブ」などはそのような話の一例であったと思う。

(委員長)

委員の皆様の意見を聞きながら思ったのが、アイデアを事業ごとのキーワードに分類できるのではないかと思う。先ほど「つなぐ」や「育てる」というキーワードが出ていた。それも含めて5つの事業ごとのキーワードに集約できる。「つなぐ」、「育てる」、「知る」、「関わる」、その他に「出会う」という言葉も出てきていたが、それも含めて「集う」だと思ふ。

「育てる」というのは先ほどから多くの意見が出ていた。「知る」というのは、アイデア集にあった「特別公開！裏方の世界」、「とつげき新聞部」などが分類できる。「関わる」というのは展示を自分でしたり、業者に依頼するだけでなく、自身が積極的に参加するということも関わってくる。「出会う」というのも良いが、「出会う」というとAとBが会うというようなイメージがあるので、みんながフェスティバルなどのイベントに対して集まってくるというニュアンスが重要だと思ひ、「集う」というキーワードにした。

少し先走った話になるかもしれないが、こうした分類をすることで、それぞれの事業を1つの組織が全て実行するのか、また例えば「育てる」事業に特化したNPOがそれを担うのかなどをイメージしやすくなるのではないかと思ふ。

(北海道大学大学院工学研究院)

各部会では基本構想で出てきたキーワードをもとにアイデア出しの議論を重ねているのだが、イメージとしては基本計画には皆様のアイデアを盛り込んで作成していきたいと思っている。本日出てきた「知る」、「育てる」事業などがあって、それにつながるかたちで階層的にアイデアが繋がっていく記載できればよいと考えている。

(委員長)

各部会のカテゴリーである「鑑賞」のような基本的な機能は、建物のゾーニングや諸室とリンクしてくる。各事業をキーワードごとに分類することで、それぞれの部会に出てきたアイデアを共同したイベントや利用などに集約して考えやすくなるのではないかと思う。それが次第にもあるような複合化や横断的検討への手がかりになる。

(北海道大学大学院工学研究院)

こういった概念でアイデアをつなげていくことで、例えば「育てる」事業を展開する組織を立ち上げることで人と人をつなぐことや、個人では実現できないと思っていたアイデアを展開していける可能性がある。この後、事務局で本日出てきた5つの事業ごとのキーワードに苦小牧版アイデア集を整理して委員の皆様にお見せしたい。

(委員長)

これから各部会から他のアイデアも多く出てくると思うが、代表的なアイデアを絞り込んでいくのがいいのではないか。今日は非常に良い意見をいただけたのではないかと思う。

(3)その他

(4)閉会